

(5) 退所児（者）の状況
ア 退所先の状況

区 分			七沢学園				七沢療育園		七沢自立支援ホーム						計																						
			児童		成人				小計		肢体不自由		視覚障害				小計																				
			実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)																			
地域生活	家族同居	就労継続支援B型 通所サービス 高等学校・大学 進学先 特別支援学級・特別支援学校 三療養成機関(あんま・鍼・灸) 職業訓練校等 自営 職場復帰 新規就労 趣味・サークル活動・家事等 保護介助 小計	1	12.5	(1)	1	8.3	(1)	1	10.0	98.5	40.0	66.6	50.0	2	3																					
																	151	1	(1)	(1)	2	152															
																	36					37															
																						2	2	83.6													
																						(3)	1	(3)	1	1											
																						(8)	7	(8)	14	14											
																						(0)	10	(12)	10	(12)	20	209									
																	単身生活	就労継続支援B型 通所サービス 高等学校・大学 進学先 特別支援学級・特別支援学校 三療養成機関(あんま・鍼・灸) 職業訓練校等 自営 職場復帰 新規就労 趣味・サークル活動・家事等 保護介助 小計	0	—	—	—	—	20.0	26.7	22.5	2	3.6									
																													4	(2)	3	(2)	7	7			
	グループホーム	就労継続支援B型 通所サービス 高等学校・大学 進学先 特別支援学級・特別支援学校 三療養成機関(あんま・鍼・灸) 職業訓練校等 自営 職場復帰 新規就労 趣味・サークル活動・家事等 保護介助 小計	1	37.5	66.8	55.0	—	24.0	—	15.0	1	6.8																									
													1																								
	計			4	50.0	(2)	9	75.1	(2)	13	65.0	187	98.5	(0)	21	84.0	(14)	35	87.5	235	94.0																
	(地域生活)	進学先・職業を再掲	進学先	高等学校・大学 特別支援学級・特別支援学校 三療養成機関(あんま・鍼・灸) 職業訓練校等 小計	0	—	—	—	4.0	—	2.5	0.4																									
													(0)	0	(0)	0	0	(0)	1	(0)	0	(0)	1	1													
職業			自営 職場復帰 新規就労 小計	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—																								
														(0)	0	(0)	0	0	(0)	0	(0)	0	0														
施設等	施設	療養介護支援 生活介護支援 自立訓練(機能訓練) 自立訓練(生活訓練) 就労継続支援B型 就労継続支援A型 特別養護老人ホーム 老人保健施設 知的障害児施設 その他旧法施設 小計	2	50.0	(1)	1	8.3	25.0	0.5	16.0	6.7	12.5	4.4																								
医療機関			—	1	8.3	1	5.0	1	0.5	(0)	—	(0)	0	—	2	0.8																					
死亡			—	1	8.3	1	5.0	1	0.5	(0)	—	(0)	0	—	2	0.8																					
計			8	100.0	(3)	12	100.0	(3)	20	100.0	190	100.0	(0)	25	100.0	(14)	15	100.0	(14)	40	100.0	250	100.0														

注() 書きは、通所者で外書きとする
注療育園については長期・短期利用者の退所児(者)数である。

イ 退所児（者）の在所期間の状況

(単位 人)

施設名			在所期間 退所児 (者)数	1	1	2	3	4	5	0.5	1	1.5	2	3	5	10	計
				月 未 満	～ 2 月	～ 3 月	～ 4 月	～ 5 月	～ 6 月	～ 1 年	～ 1.5 年	～ 2 年	～ 3 年	～ 5 年	～ 10 年	年 以 上	
七 沢 学 園	児 童	実 数		1	1								4		2		8
		構 成 比 (%)	-	12.5	12.5	-	-	-	-	-	-	50.0	-	25.0	-	100.0	
	成 人	実 数	(1) 1	0	0	0	0	0	(1) 3	2	(1) 5	0	0	0	1	(3) 12	
		構 成 比 (%)	8.3	-	-	-	-	-	25.0	16.7	41.7	-	-	-	8.3	100.0	
	小 計	実 数	(2) 1	1	1	0	0	0	(1) 3	2	(1) 5	4	0	2	1	(4) 20	
		構 成 比 (%)	5.0	5.0	5.0	-	-	-	15.0	10.0	25.0	20.0	-	10.0	5.0	100.0	
七沢療育園			実 数	187	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		2	190
			構 成 比 (%)	98.4	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.1	100.0
七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム	肢体不自由	実 数	0	0	0	0	0	0	9	16	0	0	0	0	0	(0) 25	
		構 成 比 (%)	-	-	-	-	-	-	36.0	64.0	-	-	-	-	-	100.0	
	視覚障害	実 数	(1) 0	(2) 3	(2) 2	(2) 0	(3) 0	(5) 5	(1) 3	(1) 2		0	0	0	0	(14) 15	
		構 成 比 (%)	-	20.0	13.3	-	-	33.4	20.0	13.3	-	-	-	-	-	100.0	
	小 計	実 数	(1) 0	(2) 3	(2) 2	(2) 0	(3) 0	(5) 5	(1) 12	(1) 18		0	0	0	0	(14) 40	
		構 成 比 (%)	-	7.5	5.0	-	-	12.5	30.0	45.0	-	-	-	-	-	100.0	
計			実 数	(2) 188	(2) 5	(2) 3	(2) 0	(3) 0	(6) 5	(1) 15	(1) 20	(1) 5	4	0	2	3	(17) 250
			構 成 比 (%)	75.2	2.0	1.2	-	0.0	2.0	6.0	8.0	2.0	1.6	0.0	0.8	1.2	100.0

注 () 書きは、通所者で外書きとする。

注 療育園入所については長期・短期の利用者である。

(6) 施設別苦情受付件数

施 設 名	委員受付				施設受付				外部受付				計			
	苦情	相談	感謝	要望	苦情	相談	感謝	要望	苦情	相談	感謝	要望	苦情	相談	感謝	要望
七 沢 学 園 (児 童 ・ 成 人)	0	34	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	2	35	0	0
七 沢 療 育 園	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
七沢自立支援ホーム(肢体・視覚)	3	9	0	6	1	1	1	1	0	0	0	0	4	10	1	7
計	3	43	0	6	7	1	1	1	0	1	0	0	10	45	1	7

(7) 利用者満足度調査

七沢学園（児童・成人）	3.6／4点
七 沢 療 育 園	3.9／4点
七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム	3.6／4点

(8) 各福祉施設における特徴的な利用者支援

ア 七沢学園

区分		実人数	延人数	一日平均人数
強度行動障害児者 受入者数 ※1	児童	1	365	1.0
	成人	6	2,190	6.0
医療重度者 ※2		5	1,816	5.0

※1 強度行動障害児者は、県において判定された者以外に、七沢学園において同様の対応が必要な利用者を含む。

※2 医療重度者とは、難治性てんかん、腎不全、胃瘻等で特に医療管理が必要な者をいう。

イ 七沢療育園

区分	実人数	延人数	一日平均人数
超・準超重症児者 受入数 ※1	43 (短期含む) (内長期13)	4,803 (短期含む) (内長期4,365)	13.1 (短期含む) (内長期13)
短期利用者数	210	976	2.7

※1 人工呼吸器などの呼吸管理、気管内挿管、頻回の吸引などにより医療管理と看護を必要とする重症心身障害児者

ウ 七沢自立支援ホーム

(ア) 単身生活に向けた支援

区分	人数
単身者の地域移行者数	9

注 家族介護者がなく、療養中における住居喪失者や、額損等重度の障害者への自立した単身生活へ支援

(イ) 退所者の障害別内訳

区分	人数
脊髄損傷(うち四肢麻痺)	4
脳外傷者	1
脳血管障害者	15
脳性麻痺	2
二分脊椎	0
その他神経疾患等	3
視覚障害者	15
合計	40

(ロ) 視覚障害者への訪問訓練実績

区分	件数
訪問訓練実績	3

(9) 各福祉施設におけるリハビリテーション・支援の状況

ア 理学療法の状況

施 設 / 区 分			人 数		件 数	
			(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)
福 祉 局	七沢学園	児 童	0	-	0	-
		成 人	0	-	0	-
	七 沢 療 育 園		35	43.8	641	17.6
	七沢自立支援ホーム		45	56.2	2,999	82.4
	計		80	100.0	3,640	100.0

イ 作業療法の状況

区 分 施 設			人 数		件 数		自 助 具 ス プ リ ト	自 動 車 の 他	A D L 室 訓 練 数	家 庭 訪 問
			(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)				
福 祉 局	七 沢 学 園	児 童	0	-	0	-	0	0	0	0
		成 人	0	-	0	-	0	0	0	0
	七 沢 療 育 園		4	8.2	58	1.4	0	0	0	0
	七 沢 自 立 支 援 ホ ム		45	91.8	4,059	98.6	16	73	42	13
	計		49	100.0	4,117	100.0	16	73	42	13

ウ 言語訓練の状況

区 分	施 設 名 七 沢 学 園		七 沢 療 育 園	七沢自立支援ホーム	計
	児 童	成 人			
件 数	0	0	82	704	786
構成比 (%)	-	-	10.4	89.6	100.0

エ 職能訓練・支援の状況

施設名 区分		七沢自立 支援ホーム	
		件 数	構成比 (%)
評価	職 能 評 価	6	0.9
	受 託 評 価	268	39.5
作業 支援	事 務 系 作 業	0	－
	手 工 芸 系 作 業	0	－
就労 支援	職 業 準 備 訓 練	0	－
	職 業 準 備 学 習	0	－
	個 別 事 務 系 作 業	405	59.6
職場内リハビリテーション		0	－
相談 支援	本 人 面 接	0	－
	家 族 面 接	0	－
	関 係 者 面 接	0	－
計		679	100.0

オ 心理科の状況

施設名 区 分	七 沢 学 園				七沢療育園		七沢自立支援ホーム				受 託 評 価		計	
	児 童		成 人				肢体不自由部門		視覚障害部門					
	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)
心 理 テ ス ト	0	－	20	28.2	0	－	20	22.5	3	3.1	47	94.0	90	29.4
心 理 面 接	0	－	6	8.5	0	－	10	11.2	21	21.4	1	2	38	2.9
行 動 観 察	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－	0	－	0	7.2
心 理 治 療	0	－	26	36.5	76	100.0	56	62.9	66	18.2	0	－	224	54.0
家 族 面 接 他	0	－	19	26.8	0	－	3	3.4	8	8.2	2	4	32	6.5
計	0	0.0	71	100.0	76	100.0	89	100.0	98	100.0	50	100.0	384	100.0

カ 体育指導の状況

施設名 区 分		七 沢 学 園				七沢自立支援ホーム				計	
		児 童		成 人		肢体不自由部門		視覚障害部門			
		件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)
副 練	室内訓練	0	—	0	—	0	—	303	78.7	303	66.0
	屋外訓練	0	—	0	—	0	—	75	19.5	75	16.3
	水泳訓練	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
評 価		0	—	0	—	74	100.0	7	1.8	81	17.6
計		0	—	0	—	74	100.0	385	100.0	459	100.0

キ リハビリテーション工学の状況

義肢製作及び評価等の状況

施設名 区 分		七沢学園	七沢療育園	七沢自立支援ホーム		計	構成比(%)
				肢体不自由部門	視覚障害部門		
K R R C		0	0	0	0	0	0.0
義 肢 製 作 及 び 評 価		0	0	0	0	0	0.0
補 装 具 製 作 及 び 試 作		0	0	0	0	0	0.0
歩 行 ・ 動 作 計 測		0	0	0	0	0	0.0
車いす設計・製作及び評価		0	6	5	0	11	12.0
座 圧 計 測		0	0	1	0	1	1.1
ポジショニングチェア、製作及び評価		0	48	1	0	49	53.3
意 志 伝 達 装 置 設 計 ・ 製 作 及 び 評 価		0	0	0	0	0	0.0
住宅改修設計および評価		0	0	0	0	0	0.0
エンシニアリンク・サービース		0	6	25	0	31	33.7
計		0	60	32	0	92	100.0
構 成 比 (%)		0.0	65.2	34.8	0	100.0	—

注1 義肢製作及び評価には、修理を含む。

注2 地域支援はその他を含む。

(10) 給食業務の状況

施設名		入 所 児 者 数								短期 利用等 入所者	指導食	検食・ 保存食	計
		常食	構成比	軟流動食	構成比	特別食	構成比	小計	構成比				
七沢学園	児童	26,056	22.1 %	0	- %	0	- %	26,056	22.1 %	785	0	2,919	29,760
	成人	23,681	20.1 %	535	48.9 %	1,064	0.9 %	25,280	21.4 %	937	1,095	0	27,312
七沢療育園		0	- %	29,140	24.6 %	4,407	3.7 %	33,547	28.4 %	1,365	1,095	0	36,007
七沢自立支援ホーム		9,651	8.2 %	0	- %	23,526	19.9 %	33,177	28.1 %	722	0	1,095	34,994
計		59,388	50.3 %	29,675	25.1 %	28,997	24.6 %	118,060	100.0 %	3,809	2,190	4,014	128,073

注 1 短期利用等入所者は、受託評価及び短期入所者の給食とする。

2 七沢学園（成人）及び七沢自立支援ホームの通所者の給食は、入所児者数に含む。

2 病院事業

神奈川リハビリテーション病院では、脊髄損傷、脳外傷等の後天性脳損傷（高次脳機能障害）、変形性股関節症等の骨関節疾患、脳血管障害、神経難病、小児神経疾患を中心に早期社会復帰に向けたリハビリテーション医療を行っている。

令和6年度の入院患者数は、延83,071人（実入院患者数1,246人）で、一日平均の入院患者数は227.6人（一日平均入院率81.3%）であった。退院患者数は、1,213人で、自宅復帰が1,064人（87.7%）となっている。外来患者数は、延47,806人（一日平均196.7人）であった。

国土交通省の事業であり独立行政法人自動車事故対策機構（ナスバ）が実施主体である「重度脊髄損傷者受入環境整備事業（モデル事業）」を受託した。自動車の交通事故による脊髄損傷者の受入環境整備に向けたモデル事業であり、脊髄損傷者のリハビリテーションに関する検証に協力した。

また、令和7年度の病院機能評価の受審に向け、今年度は本番を想定した模擬審査を令和7年3月19日に受審するなど受審に向けた準備を行った。

なお、令和5年9月から始まった体育館の耐震及び改修工事（冷房等の設置工事等）により本年度は体育館の利用ができず、令和7年3月まで渡り廊下等を活用して体育訓練を行った。

(1) 病院利用状況 (単位 人)	
区 分	神奈川リハ病院
前年度末在院患者数	201
入院患者数	1,246
退院患者数	1,213
一日平均患者数	227.6
一日平均入院率 (%)	81.3
平均在院日数 (日)	66.6
年度末在院患者数	233
年間延入院患者数 (診療実日数365日)	83,071
一日平均外来患者数	196.7
年間延外来患者数 (診療実日数243日)	47,806

※ 平均在院日数は回復期病棟等の入院患者の平均在院日数も含む。

(2) 入院及び外来患者の状況

ア 診療科別の状況

(単位 人)

診療科	区 分	入 院		外 来	
		年間延患者数	構成比 (%)	年間延患者数	構成比 (%)
内 科		319	0.4	4,322	9.0
神 経 内 科		11,823	14.2	2,220	4.6
小 児 科		7,343	8.8	4,714	9.9
外 科		0	—	509	1.1
整 形 外 科		28,348	34.1	14,266	29.9
脳 神 経 外 科		4,578	5.5	3,962	8.3
皮 膚 科		0	—	1,927	4.0
泌 尿 器 科		1,502	1.8	5,104	10.7
婦 人 科		0	—	0	—
眼 科		0	—	1,238	2.6
耳 鼻 咽 喉 科		26	0.0	1,054	2.2
リハビリテーション科		29,132	35.2	6,469	13.5
放 射 線 科		0	—	93	0.2
麻 酔 科		0	—	0	—
歯 科 口 腔 外 科		0	—	1,928	4.0
計		83,071	100.0	47,806	100.0

注 延患者数は、主たる診療科で計上している。

イ 主な疾患別受入実績 (単位 人)

区分	人数
脊髄損傷者	72
(うち四肢麻痺者)	49
高次脳機能障害者	200
神経難病患者	41
小児神経疾患患者	103

(3) 科別手術の状況

ア 診療科別内訳

診療科	件数	構成比 (%)
内 科	0	-
神 経 内 科	0	-
小 児 科	0	-
外 科	0	-
整 形 外 科	330	77.8
脳 神 経 外 科	2	0.5
泌 尿 器 科	91	21.5
眼 科	0	-
耳 鼻 咽 喉 科	1	0.2
歯 科 口 腔 外 科	0	-
計	424	100.0

イ 病棟別内訳

病 棟	件数	構成比 (%)
3A	36	8.5
4A	0	-
4B	298	70.4
5A	6	1.4
5B	1	0.2
3F	28	6.6
4F	51	12.0
ICU	1	0.2
外来	3	0.7
療育園	0	-
計	424	100.0

(4) 紹介・逆紹介件数実績

区分	件数
紹 介	2,041
逆紹介※	1,974

(5) セカンドオピニオン実績

件 数
3

※ 逆紹介とは、地域のかかりつけ医や介護保険事業所等に診療情報の提供を行う場合や、脳卒中地域連携バスによる地域への情報提供をいう。

(6) 診療科別平均在院日数

診療科	平均在院日数
内 科	52.0
神 経 内 科	96.3
小 児 科	62.1
外 科	-
整 形 外 科	50.6
脳 神 経 外 科	89.7
皮 膚 科	-
泌 尿 器 科	14.0
眼 科	-
耳 鼻 咽 喉 科	25.0
リハビリテーション科	101.4
歯 科 口 腔 外 科	-
全 科	66.6

(7) 病棟別利用率・平均在院日数

病 棟	利用率	平均在院日数
3A	69.8%	48.3
4A	93.0%	80.6
4B	74.8%	35.8
5A	76.6%	70.7
5B	94.1%	93.7
3F	82.1%	102.0
4F	77.0%	79.6
全病棟	81.3%	66.6

(8) 退院患者の状況

高次脳障害		転帰(退院経路)									
		自宅		施設		転院		死亡		合計	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
入院経路	自宅	36	3.0	0	—	0	—	0	—	36	3.0
	施設	0	—	0	—	0	—	0	—	0	0.0
	転院	128	10.6	18	1.5	18	1.5	0	—	164	13.5
	小計	164	13.5	18	1.5	18	1.5	0	—	200	16.5

脊髄損傷		転帰(退院経路)									
		自宅		施設		転院		死亡		合計	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
入院経路	自宅	2	0.2	0	—	0	—	0	—	2	0.2
	施設	0	—	0	—	0	—	0	—	0	0.0
	転院	27	2.2	4	0.3	3	0.2	0	—	34	2.8
	小計	29	2.4	4	0.3	3	0.2	0	—	36	3.0

変形性股関節症		転帰(退院経路)									
		自宅		施設		転院		死亡		合計	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
入院経路	自宅	174	14.3	1	0.1	2	0.2	1	0.1	178	14.7
	施設	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
	転院	6	0.5	0	—	0	—	0	—	6	0.5
	小計	180	14.8	1	0.1	2	0.2	1	0.1	184	15.2

小児		転帰(退院経路)									
		自宅		施設		転院		死亡		合計	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
入院経路	自宅	69	5.7	0	—	0	—	0	—	69	5.7
	施設	0	—	0	—	1	0.1	0	—	1	0.1
	転院	35	2.9	1	0.1	8	0.7	0	—	44	3.6
	小計	104	8.6	1	0.1	9	0.7	0	—	114	9.4

その他		転帰(退院経路)									
		自宅		施設		転院		死亡		合計	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
入院経路	自宅	315	26.0	1	0.1	6	0.5	1	0.1	323	26.6
	施設	0	—	13	1.1	0	—	1	0.1	14	1.2
	転院	272	22.4	35	2.9	34	2.8	1	0.1	342	28.1
	小計	587	48.4	49	4.0	40	3.3	3	0.2	679	55.9

全体		転帰(退院経路)									
		自宅		施設		転院		死亡		合計	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
入院経路	自宅	596	49.1	2	0.2	8	0.7	2	0.2	608	50.2
	施設	0	—	13	1.1	1	0.1	1	0.1	15	1.2
	転院	468	38.6	58	4.8	63	5.2	1	0.1	590	48.6
	合計	1,064	87.7	73	6.0	72	5.9	4	0.3	1,213	100.0

(9) 地域別入院患者の状況 (単位 人)

区 分	患者数	構成比 (%)
横 浜 市	136	10.9
川 崎 市	47	3.8
相 模 原 市	78	6.3
横 須 賀 市	14	1.1
鎌 倉 市	11	0.9
逗 子 市	2	0.2
三 浦 市	5	0.4
葉 山 町	0	-
藤 沢 市	43	3.5
茅 ヶ 崎 市	23	1.8
寒 川 町	6	0.5
平 塚 市	64	5.1
秦 野 市	45	3.6
伊 勢 原 市	75	6.0
大 磯 町 ・ 二 宮 町	11	0.9
厚 木 市	335	26.9
大 和 市	19	1.5
海 老 名 市	46	3.7
座 間 市	30	2.4
綾 瀬 市	16	1.3
愛 川 町 ・ 清 川 村	47	3.8
小 田 原 市	31	2.5
南 足 柄 市	9	0.7
足 柄 上 郡	19	1.5
足 柄 下 郡	4	0.3
県 内 計	1,116	89.6
東 京 都	77	6.2
そ の 他	53	4.2
県 外 計	130	10.4
合 計	1,246	100.0

※ 七沢療育園は除く。

(10) 薬剤業務

ア 調剤件数

施設名 区分		入院	外来	計
処方せん枚数		37,931	14,760	52,691
内 服	件数	90,726	30,430	121,156
	延剤数	675,522	1,431,101	2,106,623
	構成比 (%)	74.9	25.1	100.0
外 用	件数	7,712	11,028	18,740
	延剤数	51,226	169,121	220,347
	構成比 (%)	41.2	58.8	100.0
頓 服	件数	6,351	881	7,232
	延剤数	26,467	10,750	37,217
	構成比 (%)	87.8	12.2	100.0
計	件数	104,789	42,339	147,128
	延剤数	753,215	1,610,972	2,364,187
	構成比 (%)	71.2	28.8	100.0

注 構成比は、件数に対する比率で、神奈川リハ病院の入院には七沢療育園を含む。

イ 注射薬払い出し件数・製剤件数

区 分 施 設 名		注 射 薬				製 剤
		枚 数	件 数	延剤数	構成比 (%)	件 数
入 院		9,151	21,002	21,002	73.2	11
外 来		4,120	7,683	7,683	26.8	
計		13,271	28,685	28,685	100.0	

ウ 薬剤管理指導業務

服薬指導延患者数	3,843 人
服薬指導延回数	7,576 回
算 定 件 数	5,924 件

エ 後発薬品採用率

使 用 割 合	39.7 %
---------	--------

(11) 検査業務の状況

検査項目 \ 区分	院内処理件数	委託件数（外注）	計
一般検査	73,991	2	73,993
血液学的検査	108,450	93	108,543
臨床化学的検査	230,273	1,766	232,039
内分泌学的検査	3,273	450	3,723
免疫学的検査	20,824	2,400	23,224
微生物学的検査	10,767	27	10,794
生理機能検査	4,187	0	4,187
病理学的検査	0	182	182
解剖	0	0	0
その他検体検査	8,496	0	8,496
計	460,261	4,920	465,181

区分	件 数	構成比（％）
入院	204,381	43.9
外来	260,800	56.1
計	465,181	100.0

(12) 放射線業務の状況

ア 放射線撮影件数

(単位 件)

撮影区分 区 分	透視	撮 影					合 計
		造 影	一 般	断 層	歯 科	小 計	
入 院	66	28	5,957	374	0	6,359	6,425
外 来	50	33	13,640	554	0	14,227	14,277
計	116	61	19,597	928	0	20,586	20,702

イ R I 検査回数

(単位 回)

検査区分 区 分	シンチグラフィ	機 能 検 査	試 料 測 定	計
入 院	50	0	0	50
外 来	156	40	0	196
計	206	40	0	246

ウ コンピュータ X 線断層撮影件数

撮影区分 区 分	単 純		造 影		計	
	件 数	回 数	件 数	回 数	件 数	回 数
入 院	1,172	376,550	43	19,142	1,215	395,692
外 来	2,323	666,248	21	10,000	2,344	676,248
計	3,495	1,042,798	64	29,142	3,559	1,071,940

エ MR 検査件数

撮影区分 区 分	単 純	造 影	計
	件 数	件 数	件 数
入 院	777	10	787
外 来	1,677	4	1,681
計	2,454	14	2,468

(13) 給食業務の状況

ア 病院延給食数

(単位 食)

区 分	常 食	軟流動食	特 別 食	検食・保存食	計
食 数	65,426	10,535	160,189	5,841	241,991

イ 栄養指導業務

栄養指導延患者数	712人
栄養指導延回数	525回
算 定 件 数	577件

(14) 理学療法の状況

施設	区分	単位数	人 数		件 数		プレースクリニック		マッサージ	社会環境 訓練	家庭訪問
			(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)	処方数	対応数			
病院	入院	151,263	1,276	61.1	67,954	92.0	240	701	0	26	98
	外来	11,407	813	38.9	5,938	8.0	432	920	55	0	0
計		162,670	2,089	100.0	73,892	100.0	672	1,621	55	26	98

(15) 作業療法の状況

施設	区分	単位数	人 数		件 数		自 助 具 スプリン ト	自 動 車 そ の 他	ADL室 訓 練 数	家庭訪問
			(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)				
病院	入院	96,822	936	76.6	47,093	96.5	564	858	534	85
	外来	3,717	286	23.4	1,716	3.5				0
計		100,539	1,222	100.0	48,809	100.0	564	858	534	85

(16) 言語訓練の状況

	入 院	外来個別訓練	外来集団訓練	計
件数	14,975	823	0	15,798
単位数	31,315	1,904	0	33,219
構成比 (%)	94.8	5.2	—	100.0

(17) 1患者当りの訓練実施件数の実績 (PT・OT・ST)

区分	令和6年度実績
回復期病棟	4.56単位
一般病棟	2.93単位

(18) 心理検査等の状況

区 分	入 院	外 来	計
	件 数	件 数	件 数
心 理 テ ス ト	4,016	1,308	5,324
心 理 面 接	461	15	476
行 動 観 察	1,281	47	1,328
心 理 治 療	7,812	1,876	9,688
家 族 面 接 他	2,112	1,060	3,172
計	15,682	4,306	19,988

(19) 職能訓練の状況

ア 訓練種別施設別訓練件数

施設名		神奈川リハ病院		計
		入 院	外 来	
区分		件 数	件 数	件 数
評価	職 能 評 価	2,386	181	2,567
	受 託 評 価	-	-	0
機能訓練	事 務 系 作 業	2,002	103	2,105
	実 務 系 作 業	3,523	174	3,697
就労支援	個 別 事 務 系 訓 練	5,948	795	6,743
	個 別 実 務 系 訓 練	2,280	205	2,485
	集 団 訓 練	57	268	325
職場内リハビリテーション		0	941	941
相談支援	本 人 面 接	627	2,008	2,635
	家 族 面 接	2	120	122
	関 係 者 面 接	5	106	111
計		16,830	4,901	21,731

注1：評価・機能訓練・就労支援・相談支援は、20分を1件としてカウントしている。

2：職場内リハは事業所の中で事業所の協力の下で実施した。1時間を1件としている。

イ 障害別訓練状況

区分	人数
外傷性脳損傷	123
脳血管障害	199
脊髄障害	88
脳疾患	17
知的障害	0
その他	34
合計	461

ウ 障害別就労者数

(単位 人)

区分	新規就労	復職	自営業	合計
外傷性脳損傷	0	13	1	14
脳血管障害	3	30	8	41
脊髄障害	1	1	0	2
脳疾患	2	1	0	3
知的障害	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	6	45	9	60

エ 就職・復職実績

(単位 人)

区分	入院	外来	七沢自立支援ホーム	計
新規就労	0	6	0	6
復職	3	42	0	45
自営	6	3	0	9
合計	9	51	0	60

(20) 体育指導の状況

施設名 区 分		神奈川リハ病院	計
		件 数	構成比
訓練	室内訓練	10,772	74.1%
	屋外訓練	2,693	18.5%
	水泳訓練	0	-
評 価		1,068	7.4%
計		14,533	100.0%

(21) リハビリテーション工学の状況

義肢製作及び評価等の状況

施設名 区 分		神奈川リハ病院		そ の 他	計
		入 院	外 来		
K R R C		0	178	0	178
義 肢 製 作 及 び 評 価		302	386	0	688
補 装 具 製 作 及 び 試 作		9	22	0	31
歩 行 ・ 動 作 計 測		30	38	4	72
車いす設計・製作及び評価		172	82	0	254
座 圧 計 測		65	16	0	81
ポジショニングチェア、製作及び評価		32	19	0	51
意 志 伝 達 装 置 設計・製作及び評価		14	2	0	16
住宅改修設計および評価		0	0	0	0
エンジニアリング・サービス		141	69	33	243
計		765	812	37	1,614
構 成 比 (%)		47.4	50.3	2.3	100.0

注1 義肢製作及び評価には、修理を含む。

注2 地域支援はその他に含む。

(22) プレース・クリニックの実施状況(含む脳卒中器具外来)

単位: 件)

施設名 区分	入院		外来		七沢療育園		七沢学園		七沢自立支援 ホーム		作製合計		修理合計
	作製	修理	作製	修理	作製	修理	作製	修理	作製	修理	件数	件数	
義肢	5	1	27	23	0	0	0	0	0	0	32	24	
装具	140	3	139	43	0	0	0	0	2	0	281	46	
車椅子	32	11	69	29	1	9	1	0	1	1	104	50	
電動車いす	2	1	4	2	0	0	0	0	0	0	6	3	
座位保持装置	8	1	21	8	0	0	0	0	0	0	29	9	
その他	19	0	13	2	0	0	0	0	0	0	32	2	
合 計	206	17	273	107	1	9	1	0	3	1	484	134	

※ 電動車椅子は、県・相模原更生相談所依頼分を除く

(23) 総合相談室の状況

ア 総合相談室 相談・対応件数

対象	本人	家族	外部機関	当院スタッフ	その他	合計
件数	6,048	5,656	7,299	9,599	95	28,697

内容	受診入院相談	在宅ケア	活動参加支援	転院・施設入所	補装具・福祉機器・住宅改修	生活支援	その他	合計
件数	2,064	11,561	3,250	1,021	3,092	3,863	13,773	38,624

イ 在宅難病者患者等緊急一時入院

相談件数	利用者延人数	利用実人数	利用延べ日数
4件	4人	4人	40日

ウ アドボカシーの状況

a 内容別件数

区分	苦情	要望	感謝	その他	計
件数	21	79	15	1	116

b 申出者別件数

区分	本人	家族	不明	その他	計
件数	57	12	46	1	116

c 対象別件数(※重複あり)

区分	診療部	看護部	リハ部	管理課	その他	計
件数	20	32	6	64	15	137

(24) 相談の状況

区 分 施 設 名		相 談 件 数	方法								対象					
			面 接	電 話	訪 問	文 章	カン フ ァ	院情報交 換・ 調整	そ の 他	小 計	本 人	家 族	外（連絡・ 調整） 機関	当 院 ス タ ッフ	そ の 他	小 計
神奈川リハ	件 数	20,029	5,391	6,780	128	1,326	674	4,822	908	20,029	5,366	5,269	5,420	7,132	81	23,268
病 院	構成比(%)	99.1%	100.0%	99.2%	100.0%	98.5%	97.0%	98.4%	100.0%	99.1%	100.0%	99.9%	99.0%	98.1%	100.0%	99.1%
七 沢	件 数	176	2	56	0	20	21	77	0	176	0	7	57	140	0	204
療 育 園	構成比(%)	0.9%	0.0%	0.8%	0.0%	1.5%	3.0%	1.6%	0.0%	0.9%	0.0%	0.1%	1.0%	1.9%	0.0%	0.9%
計	件 数	20,205	5,393	6,836	128	1,346	695	4,899	908	20,205	5,366	5,276	5,477	7,272	81	23,472
	構成比(%)	100.0%	26.7%	33.8%	0.6%	6.7%	3.4%	24.2%	4.5%	100.0%	22.9%	22.5%	23.3%	31.0%	0.3%	100.0%

施設名		区分	受相談・入院入所	内容																			小計
				在宅ケア				活動参加支援				転院・施設入所		住改・機器活用		生活支援			その他				
				ケアプラン	高齢系	障害サービス	医療系	参加プラン	日申活動	就労	就学	転院相談	施設相談(有料)	福祉・在宅機器	補装具	医療費	経済生活	家族支援	疾病障害	課題解決支援	その他		
神奈川県立相模原病院	件数	1,614	3,037	2,994	2,200	2,948	1,211	1,183	496	250	238	570	980	1,590	610	637	1,981	2,109	4,258	5,291	34,197		
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	91.7	100.0	99.7	99.7	99.7	99.9	99.4	99.4		
七沢療育園	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	144	0	2	5	6	3	32	192		
	構成比(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.3	0.3	0.3	0.1	0.6	0.6		
計	件数	1,614	3,037	2,994	2,200	2,948	1,211	1,183	496	250	238	570	980	1,734	610	639	1,986	2,115	4,261	5,323	34,389		
	構成比(%)	4.5	10.6	7.9	6.2	12.3	0.5	2.3	1.0	0.3	1.0	2.5	4.7	6.9	1.6	1.0	2.9	2.5	10.1	21.0	100.0		

(25) 地域連携室の状況

ア 入院相談件数等

(単位:件)

相談総数							
	相談のみ	入院申込数					入院決定数
			承認前 辞退等	不承認	承認	辞退	
2,082	343	1,739	0	80	1,659	408	1,223

イ 相談からの日数

区 分	相談～ 入院までの日数	相談～ 辞退までの日数	相談～ 決定・連絡までの日数
日 数	15.6日	10.0日	9.1日

ウ 地域連携室で受けた相談全体の種類と件数

区 分	入院相談 ・調整	外来受診相談	転院検索調整	他院予約調整	地域との連絡調整	情報提供	在宅療養相談	その他	合 計
件 数	2,082	142	28	6	68	130	0	41	2,497

3 リハビリテーション研究事業

神奈川リハビリテーション病院研究部では、障害者等の自立生活促進や継続支援を目的に、リハビリテーションに関する調査、研究・開発を行っている。また、これらの成果物を対外的に発信する中で、高度専門性の構築も目指している。

(1) リハビリテーションに関する調査、研究・開発

研究は、以下ア～ウを視点に、医学的、工学的、社会福祉学的領域において調査、研究・開発を行い医療・福祉の向上に向け取り組んだ。また、当センターの調査、研究・開発経験を活かし、企業との共同研究、受託研究を実施した。

ア 障害発生の原因の解明とそれに基づく予防対策の確立

イ 障害発生の除去、修復メカニズムの解明

ウ 障害者の自立促進のための研究

研究の主な対象としては、神奈川リハビリテーション病院では、①骨関節疾患（変形性関節症）、②脊髄損傷及び脊髄疾患、③神経難病（小児神経疾患を含む）、④高次脳機能障害（外傷性脳損傷、脳卒中など）である。

また、新たに末梢神経に磁気刺激を与え、筋の収縮を誘発する医療機器（パスリーダー、株式会社 IFG 社製）やバーチャルリアリティを用いた歩行・バランストレーニングシステム（GRAIL、MOTTEK 社製）を導入し、リハビリテーション場面での運用を開始するとともに、高度専門性の高いリハビリテーションを提供するための研究も実施している。

(2) 情報提供・情報発信

区分	主な事業
医学・研究等の 撮影業務	静止画（事務作業支援含む） 139 件
	動画（編集含む） 203 件
図書業務	文献複写支援件数 52 件
	定期購読中の雑誌
	国内誌 紙媒体 32 タイトル
	国外誌 電子媒体(単体) 6 タイトル
	Ovid(パッケージ) 140 タイトル
	(Book 105・Journal 34・その他 1)
研究・研修事業	令和 6 年度製本雑誌
	国内(和雑誌) 94 冊
	国外(洋雑誌) 0 冊
研究・研修事業	神奈川県総合リハビリテーションセンター 第 48 回研究発表会 開催
	神奈川県総合リハビリテーションセンター 紀要第 49 号 発行
その他	研修などのポスター作製の支援 198 件

(3) 研究発表会

神奈川県総合リハビリテーションセンター研究発表会の実施状況は下記のとおりである。

ア 開催回数（通算） 48 回目

イ 日 時 令和 7 年 2 月 26 日(水) 13:00～17:45

ウ 場 所 神奈川リハビリテーション病院 3 階研修室

エ 参 加 者 数 127 名

オ 発 表 内 容

I 一般演題 計 22 題

内訳 看護交流会受賞演題 1 題, 応募口演発表 14 題, 応募ポスター発表 7 題

II シンポジウム

テーマ 「上肢形成不全児の筋電義手から始まる包括的支援～輝く未来のために～」

<座長> 横山 修

(神奈リハ病院 診療部長 研究部副部長 リハビリテーション科医師)

<シンポジスト>

「イントロダクション・神奈川リハビリテーション病院の取り組み」

横山 修

(神奈リハ病院 診療部長 研究部副部長 リハビリテーション科医師)

「四肢形成不全児に対する取り組み」

藤原 清香 氏

(東京大学医学部附属病院 リハビリテーション科医師)

「上肢形成不全・切断児にタイルス」

柴田 八衣子

(兵庫県立リハビリテーション中央病院 作業療法士)

「上肢形成不全・切断児の生活状況」

中村 隆 氏

(国立障害者リハビリテーションセンター研究所 義肢装具士)

(4) かながわりハビリロボットクリニック (Kanagawa Rehabili Robot Clinic (K R R C)) の取組

筋電義手の処方、訓練など筋電義手の普及に向けた取組、ロボットリハビリテーションの実施、企業・大学研究室への開発支援を行った。

筋電義手の処方・訓練については、「未来筋電義手センター」として乳幼児を含め実施している。特に乳幼児の患者については、義手に慣れる必要から比較的軽い装飾用義手を装着し欠損肢の延長イメージを得ることから始め、年齢や習熟度に応じて筋電義手へ移行していく。訓練内容については、小児の場合であれば好きな遊びや、日常生活や保育園、学校などにおける課題やニーズに合わせ訓練内容を患者個人ごとに工夫した。また、電極の位置やソケットのフィット感、使用に当たり痛みや不快感が無いよう適切なソケットの製作に取り組んだ。令和6年度は 19 名の患者が訓練を行なった。アウトリーチ支援として県立こども医療センターと川崎市複合福祉センター「ふくふく」と連携し訓練等を実施した。また、当事者とその家族を集めた家族会「MIRAI ラボ」を開催し先輩当事者の話や同じ症状の子どもたち同士と一緒に遊べるプログラムを提供し、ピアサポートを促すとともに当事者の交流の場、情報交換の場を設けた。

ロボットを活用したリハビリテーションでは、主に脊髄損傷の患者を対象に HAL®を活用した歩行訓練を行った。

企業・大学研究室への開発支援として、さがみロボット産業特区における実証実験 1 件、その他直接依頼を受けて 1 件実施した。

ア 相談者の状況

区 分	今年度累計	
	件数	構成比
個 人	7	41.2%
本 人	2	11.8%
家 族	5	29.4%
福祉関係施設	0	-
医療機関	0	-
大学・研究機関	0	-
企 業	9	52.9%
国	0	-
地方自治体	1	5.9%
その他	0	-
合 計	17	100.0%

イ 相談内容

項 目	今年度累計	
	件数	構成比
筋電義手	7	41.2%
ロボットリハビリの実施について	-	-%
実証実験の実施について	8	47.0%
さがみロボット産業 特区関係	3	17.6%
さがみロボット産業 特区以外の実証実験	5	29.4%
その他	2	11.8%
合 計	17	100.0%

(5) 障害者スポーツの支援

ア かながわ障害者スポーツ支援部門（Kanagawa Para-Sports Support Project（K P S P））

神奈川県における障害者スポーツ・競技・レジャー（以下「障害者スポーツ等」）の拠点として、当院の患者に向けた障害者スポーツ等に関する医療的支援や情報提供、各競技団体と連携し参加と継続につながる総合的な支援を行なっている。障害者スポーツ等に携わる職員の経験や情報を集約し、障害者スポーツ等を担う団体とともに普及・啓発を目指すとともに、それら情報を集約し発信していくための拠点構築を目指している。

こうした病院職員の職種を超えた横断的な連携により、下記のような体験会等の運営やイベントでの普及活動を行っている。

イ 障害者スポーツ体験会の実施

障害者スポーツ体験会を障害の有無にかかわらず地域在住の方を対象に4回実施した（表2）。特に令和6年度は「ななさわボッチャ大会」として競技大会を一般向けに開催し多くのチーム参加があった。また、令和5年度に引き続き厚木市主催の「厚木市スポーツなじみデイ」と同時開催の形をとり、荻野運動公園体育館にて障害者スポーツ体験会を実施した。車椅子バスケットボール、陸上競技のレーサー、チェアスキーシミュレーター、義手による運動体験といった体験会を行った。市のイベントということもあり、地域で生活している障害者やその家族だけでなく、幼児から高齢者まで幅広い年代の方に参加いただいた。こうした活動は、障害者の社会参加の一助となるだけでなく、障害者理解や共生社会の実現の一環となった。

表2 障害者スポーツ体験会開催状況

日時	種目	参加者数	開催場所
令和6年 7月6日	ボッチャ	55名	荻野運動公園 体育館
令和6年 12月8日	ななさわボッチャ大会 かなりはフェスティバル (障害者スポーツ体験会、 福祉機器展示会)同時開催	ボッチャ大会参加者 数:23チーム72名 フェスティバル参加 者数:98名	神奈川リハビリ テーション病院
令和7年 2月8日	陸上競技	45名	荻野運動公園 陸上競技場
令和7年 3月15日	車椅子バスケ、レーサー体 験、チェアスキー体験、義 手スポーツ体験等 (厚木市スポーツなじみ デイ同時開催)	66名	荻野運動公園 体育館



ボッチャ体験



スラローム体験



陸上(義足)の体験



車椅子バスケットボール体験



ななさわボッチャ大会



義手の運動体験

(6) 市民向け公開講座

一般市民向けに「人工関節の進歩と骨粗鬆症」をテーマに医師、管理栄養士、理学療法士による講演や実演を行った。肩、膝、股関節治療の最新の知見を紹介するとともに、栄養指導、体操の紹介を行った。(開催日：令和6年11月16日)

(7) 専門職向けセミナーの開催

ア 股関節症の治療とリハビリテーション～歩行再建に向けた運動療法の実際～

股関節疾患の治療に携わる医療専門職を対象に最新の外科的治療の紹介や運動療法の実際について、整形外科医や理学療法士から講義や実技を通じて、知識・手技・考え方を学べる研修会として開催した。(開催日：令和6年12月1日)

イ 脊髄リハビリテーションシンポジウム

当院と特定非営利活動法人日本せきずい基金との共催により開催した。セミナーでは、リハビリテーション科医師や泌尿器科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、それぞれの立場で報告した後、総合討議をおこなった。(開催日：令和6年5月24日)

4 地域リハビリテーション支援センター事業

地域リハビリテーション支援センターでは、地域における障害者・高齢者等へ適切なリハビリテーションサービスを円滑に提供するための人材育成・情報提供・関係機関との連携推進に関する業務を地域支援室と高次脳機能障害支援室で行っている。

地域支援室では、事業団事業と県委託事業である「神奈川県リハビリテーション支援センター」事業を行っている。事業団事業はリハビリテーション専門研修等を行っている。県委託事業はリハビリテーション従事者等に向けた相談対応・情報提供、研修等を行っている。

高次脳機能障害支援室では、県委託事業である「高次脳機能障害支援普及事業」の神奈川県内の支援拠点機関として、支援コーディネーターと心理判定員が配置されており、高次脳機能障害者への相談支援、普及啓発活動、研修事業等を行っている。

(1) リハビリテーション専門研修（指定管理事業）

医療・保健・福祉・介護専門職を対象とした研修で、令和6年度は13コースの研修を全て対面形式で実施した。引き続き感染マニュアルに基づく新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を行った。研修終了後、受講生からの感染報告は無かった。延受講者数は、外部受講者367名、事業団職員40名で総受講者延数は407名であった。研修アンケートでの4段階評価は、平均3.9であった。

表1 研修内容と受講者数、評価点等

NO	研 修 名	受講 方法	開催日		定員	総受講 者延数	評価 /4
1	からだにやさしい介助入門	対面	6月1日	土	30人	32名	3.9
2	ポジショニング入門	対面	6月12日	水	30人	33名	3.9
3	セラピストのためのハンドリング入門	対面	7月6日	土	30人	45名	3.9
4	在宅における循環機能低下のリスク管理	対面	7月27日	土	30人	17名	3.7
5	脳血管障がいの評価と治療	対面	9月7日	土	20人	25名	3.9
6	ADL支援の知識と実践	対面	9月28日	土	30人	27名	3.9
7	知的障がいのある方への支援	対面	10月8日	火	30人	48名	3.8
8	視覚障がいのある方への支援	対面	10月23日	水	20人	17名	3.9
9	排泄ケアの知識と実践	対面	11月2日	土	30人	33名	3.9
10	摂食嚥下障がいのある方への支援	対面	11月14日	木	30人	30名	3.9
11	褥瘡予防セミナー	対面	12月3日	火	30人	44名	3.9
12	維持期における装具支援	対面	1月25日	土	30人	23名	4.0
13	車いすシーティング	対面	2月1日	土	30人	33名	3.9
合 計			開催回数13回		370名	407名	3.9

(2) 地域リハビリテーション支援関連活動（指定管理事業）

ア 政令市のリハセンターとの連絡会 「かながわ地域リハビリテーション支援連絡会」

平成24年度より情報交換等を目的に、県内政令市（横浜市・川崎市・相模原市）のリハセンター・リハ施設と開催している。令和6年度は、対面にて2回開催した。

- ① 開催日：令和6年10月30日（水）
会場：横浜総合リハビリテーションセンター テーマ：「ICTを活用した支援について」
- ② 開催日：令和7年3月3日（月）
会場：けやき会館（相模原市） テーマ：「若年の中途障害者に対する支援について」

イ 地域医療介護連携会議等への参加

- ① 「神奈川県小児等在宅医療推進会議」 2回
- ② 「自立支援協議会」（県、保健福祉圏域、市町村）
 - ・神奈川県障害者自立支援協議会 2回
 - ・湘南東部障害保健福祉圏域自立支援協議会 2回
 - ・湘南西部障害保健福祉圏域自立支援協議会 2回
 - ・県西障害保健福祉圏域自立支援協議会 2回
 - ・県央障害保健福祉圏域自立支援協議会 2回
 - ・横須賀・三浦障害福祉圏域自立支援協議会 1回
 - ・清川村障がい者協議会 1回

ウ 保健福祉事務所への難病患者支援研修等の協力

保健福祉事務所6か所および保健所2か所の難病患者支援事業に協力した。

- ① 厚木保健福祉事務所大和センター
実施日：令和6年4月17日・6月19日・9月18日・12月4日
依頼事業名：「難病患者向け訪問リハビリ相談への相談員派遣」
- ② 平塚保健福祉事務所秦野センター
実施日：令和6年10月11日・11月15日
依頼事業名：「難病講演会・難病リハビリ教室講師依頼」
- ③ 小田原保健福祉事務所足柄上センター
実施日：令和6年11月21日
依頼事業名：「難病リハビリ教室・難病患者と家族のつどい（交流会）」
- ④ 小田原保健福祉事務所
実施日：令和6年9月20日・令和7年3月7日
依頼事業名：「難病リハビリ教室」
実施日：令和7年3月13日
依頼事業名：「難病リハビリ訪問相談」
- ⑤ 藤沢市保健所
実施日：令和7年2月28日
依頼事業名：「在宅難病患者保健福祉支援者研修」
- ⑥ 横須賀市保健所
実施日：令和6年8月30日
依頼事業名：「リハビリ教室と交流会の講師派遣」
- ⑦ 厚木市保健福祉事務所
実施日：令和7年2月18日
依頼事業名：「難病患者在宅ケア従事者研修会」

⑧ 鎌倉保健福祉事務所

実施日：令和6年12月16日

依頼事業名：「難病リハビリ教室および医療相談会の講師派遣」

エ 支援学校の福祉用具体験会の企画・運営

日時：令和6年7月23日（火）

場所：神奈川県立茅ヶ崎支援学校

参加者：約70名

オ その他の地域リハビリテーション関連事業への協力

厚木市「自立支援型ケア会議」 毎月1回

(3) 神奈川県リハビリテーション支援センター事業(県委託事業)

ア リハビリテーションの相談対応・情報提供

(ア) リハビリテーション専門相談

令和6年度の相談件数は160件（前年度184件）で昨年度に比べやや減少した。新規相談件数は104件（前年度114件）であった。訪問件数は延べ32件（前年度25件）であった。令和6年度の傾向として、神経・筋疾患に関する相談と湘南東部・西部圏域からの相談件数の増加がみられた。

表2 障害別の相談件数

区分	件数	構成比
神経・筋疾患	45(24)	28.1%
視覚障害	37(58)	23.1%
知的障害	17(58)	10.6%
脳血管障害	16(16)	10.0%
脳性麻痺	15(5)	9.4%
脊髄障害	7(4)	4.4%
後天性脳損傷(除CVA)	7(3)	4.4%
骨関節疾患	1(3)	0.6%
不明	5(3)	3.1%
その他	10(10)	6.3%
合計	160(184)	100.0%

※ 表2～表9の（ ）の数字は令和5年度実績

表3 相談依頼元の相談件数

区分	件数	構成比
本人家族	44(65)	27.4%
障害者施設	25(54)	15.5%
保健福祉事務所	18(13)	11.3%
訪問看護事業所	14(5)	8.8%
障害者相談事業所	14(5)	8.8%
居宅介護支援事業所	10(9)	6.3%
医療機関	10(11)	6.3%
高齢者施設	9(7)	5.6%
地域包括	9(12)	5.6%
市町村	1(1)	0.6%
障害者更生相談所	0(1)	0.0%
訪問介護事業所	0(0)	0.0%
教育機関	0(0)	0.0%
その他	6(1)	3.8%
合計	160(184)	100.0%

表4 保健福祉圏域別相談件数

区分	件数	構成比
県央	57(69)	35.6%
湘南東部	25(10)	15.6%
湘南西部	24(19)	15.0%
横須賀・三浦	20(24)	12.5%
横浜市	16(30)	10.0%
県西	8(15)	5.0%
川崎市	2(3)	1.3%
相模原市	4(9)	2.5%
県外	4(5)	2.5%
合計	160(184)	100.0%

表5 目的別訪問・来所相談件数

区分	件数	構成比
補装具・福祉用具機器	9(10)	28.1%
コミュニケーション支援	7(1)	21.9%
支援内容検討	6(0)	18.8%
介護指導	4(1)	12.5%
訓練プログラム	4(9)	12.5%
環境整備	1(3)	3.1%
医療	1(0)	3.1%
ADL 指導	0(1)	0.0%
その他	0(0)	0.0%
合計	32(25)	100.0%

(イ) 視覚障害に関する相談について（スマートサイト）

専門相談として、神奈川県眼科医会との協力で視覚障害、ロービジョンの相談を受けている。県内の各眼科にリーフレットが配布されており、当事者やご家族から電話相談を受けている。日常生活の困りごとや、障害手帳申請、視覚訓練、社会資源、制度利用などの情報提供を行っている。

相談方法は、地域リハ支援センターに電話をもらい、神奈川リハビリテーション病院眼科、七沢自立支援ホーム視覚部門と情報を共有して電話で回答している。必要に応じて神奈川リハビリテーション病院の眼科外来に受診していただくこともある。

令和6年度は新規32件、総数で37件の相談があった（前年度は、新規相談件数48件、延べ相談件数58件）。そのうち4件が神奈川リハビリテーション病院外来につながった。さらにその中で七沢自立支援ホーム視覚部門利用に1件（通所）つながった。

スマートサイトの主な相談内容としては、見えにくさによる生活のしづらさについての相談から、眼科医からスマートサイトのような相談窓口があると教えられて、特に困り感などないまま電話してくるケースも散見された。

(ウ) 情報提供

ホームページ上で県内のリハビリテーション関係機関の情報、リハビリテーション専門研修の開催案内及び募集や、当支援センターで行っている高次脳機能障害支援事業の紹介、広報誌「地域リハビリテーション支援センターだより」を含めたリハビリテーションに関わる情報を掲載し発信している。ホームページへのアクセス数は、44,788件（前年度46,111件）で、閲覧数はやや減少傾向であった。

「地域リハビリテーション支援センターだより」は、A3版両面で、地域連携構築推進事業等の研修案内や報告、専門相談の事例紹介、学会等への参加情報などを掲載している。令和6年度は県内約240機関へ年4回配布した。だよりは、平成21年5月に創刊し、約15年間地域へ支援センターの事業報告及び今後の活動について情報提供を続けている。配布先は、最新の情報に即して毎年追加変更しており、今後もリハビリテーション情報提供の視点から継続していく。

イ リハビリテーション従事者等を対象とした研修

地域リハビリテーション連携構築推進事業を県内2か所で2回行った。逗子市は対面とオンラインのハイブリッド、愛川町は対面で実施した。

(ア) 逗子市の研修

実施テーマ：「難病の支援と多職種連携について」

実施日：第1部 12月13日（金）「パーキンソン病の初期段階について各専門職から」

第2部 12月20日（金）「難病の方のコミュニケーション支援についての考え方、進め方」

参加人数：延べ103名

（第1部会場23名・オンライン32名 第2部会場25名・オンライン23名）

事後アンケート：第1部 3.83（4点満点） 第2部 3.83（4点満点）

(イ) 愛川町の研修

実施テーマ：「愛川町・厚木市・清川村の介護を考える」

実施日：第1部 令和7年1月19日（日）

「今さら聞けない自立支援型地域ケア会議について」

第2部 令和7年2月5日（水）

「愛川町・厚木市・清川村の住民の暮らしを支えるために必要なこと」

参加人数：延べ63名（第1部17名 第2部46名）

事後アンケート：第1部 4.00（4点満点） 第2部 3.95（4点満点）

(4) 高次脳機能障害支援普及事業（県委託事業）

ア 相談支援事業

(ア) 個別相談

新規相談件数はやや減少傾向で、「本人・家族」、「地域相談窓口」の割合が減少した。その一方、「医療機関」からの相談割合は増加した。障害別では、昨年度同様「脳卒中」の割合が高くなっている。圏域別対応件数では、湘南西部在住者の相談件数の割合が増加していた。

表6 新規相談依頼元の相談件数

区分	件数	構成比
医療機関（外来含む）	82(75)	42.2%
本人・家族	63(94)	32.5%
地域相談窓口	26(36)	13.4%
介護保険関係機関	10(10)	5.2%
障害者施設	5(3)	2.6%
家族会	3(0)	1.5%
市町村	1(4)	0.5%
その他	4(3)	2.1%
合計	194(225)	100.0%

表7 新規障害別の相談件数

区分	件数	構成比
脳卒中	89(102)	45.9%
成人外傷性脳損傷	65(72)	33.5%
小児脳損傷	7(10)	3.6%
神経難病	2(1)	1.0%
脊損・頸損	0(0)	0.0%
骨・関節疾患	0(0)	0.0%
不明	5(3)	2.6%
その他(低酸素脳症等)	26(37)	13.4%
合計	194(225)	100.0%

表8 相談内容別の相談件数（重複）

区分	件数	構成比
生活課題への対応	1,155(884)	29.8%
経済・制度利用	679(592)	17.5%
就労・教育等	608(432)	15.7%
福祉サービス・ 社会資源	468(371)	12.1%
リハ訓練（通プロ含）	431(400)	11.1%
家族支援	346(371)	8.9%
医療	158(239)	4.1%
医療機関紹介	20(12)	0.5%
福祉機器・用具	7(0)	0.2%
補装具	1(16)	0.1%
看護・介護方法	0(1)	0.0%
住宅改修	0(1)	0.0%
その他	0(10)	0.0%
合計	3,873(3,329)	100.0%

表9 相談に対する保健福祉圏域別の件

区分	件数	構成比
県央	86(95)	20.3%
湘南西部	67(61)	15.7%
湘南東部	62(72)	14.6%
横浜	50(62)	11.7%
相模原	44(54)	10.3%
横三	35(38)	8.2%
県外	33(38)	7.7%
県西	26(30)	6.1%
川崎	18(22)	4.2%
不明	5(3)	1.2%
合計	426(475)	100.0%

（イ）巡回相談事業

巡回相談（当事者家族会）は7か所、延べ51回実施した（延べ参加者は当事者202名、家族186名、専門相談10件）。基本的には対面開催となり、必要に応じてリモート開催を行った地域もあった。毎回参加していただく方に加えて新たに参加される方もおり、当事者・家族同士のピアカウンセリング、身近な地域での相談場所としての認識が広がっていると考えられる。また、当事者・家族会に合わせて専門相談を実施し、地域の支援者にも同席をしていただくことで、高次脳機能障害者支援のポイントや社会資源の情報共有に繋がり、身近な地域で相談を受けられる体制作りの一助となっていると思われる。

また、令和6年度は、鎌倉市、二宮町の介護保険関係の事業所で開催することとなった。鎌倉市では地域包括支援センターのケアラー事業の一環で交流会を開催し、二宮町では小規模多機能型居宅介護にて家族交流会を開催した。

① 相模原（ぶらすかわせみ）：第1土曜日

8回（当事者102名、家族48名、支援者32名）内専門相談3件

② 藤沢（チャレンジII）：当事者会（第1水曜日）と家族会（第3水曜日）

当事者会9回（当事者69名 支援者39名）

家族会12回（家族59名 支援者49名）

- ③ 小田原（おだわら障害者総合相談センター）：第1金曜日
9回（当事者11名、家族35名、支援者17名）内専門相談6件
- ④ 大和（大和市障害者自立支援センター）：第2水曜日
9回（当事者3名、家族40名、支援者24名）内専門相談1件
- ⑤ NPO法人脳外傷友の会ナナ会 就労を考える会（スペースナナ）：年2回土曜日
2回（当事者16名、支援者3名）
- ⑥ 鎌倉（ケアラーズカフェ@お庭）
1回（家族4名 支援者4名）
- ⑦ 二宮（いつでもどうぞ）
1回（当事者1名 支援者複数名）

イ 普及・啓発事業

（ア）障害保健福祉圏域自立支援協議会

専門的な相談支援、関係機関との地域支援ネットワークの構築を担うため、県下圏域の自立支援協議会に参画している。地域の支援機関と連携をしながら高次脳機能障害者の個別の相談やサービス利用へのコーディネートをはかるとともに、行政への福祉計画への参画といった側面もあり重要と位置づけている。各年2回程度開催されている。

表 10 県・障害福祉圏域自立支援協議会

日 時	場 所	内 容
7/25	県央（オンライン）	圏域ネットワーク形成事業の実施報告 各市町村自立支援協議会の実施状況 地域課題の報告及び意見交換等
7/29	県西（オンライン）	
7/31	横須賀三浦（ヴェルクよこすか）	
7/31	湘南西部（秦野市保健福祉センター）	
8/2	湘南東部（アイクロス湘南）	
R7/2/5	横須賀三浦（ヴェルクよこすか）	
R7/2/12	県西（オンライン）	
R7/2/12	県央（オンライン）	
R7/2/14	湘南東部（アイクロス湘南）	
R7/2/19	湘南西部（伊勢原市立中央公民館）	

（イ）神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会

高次脳機能障害の支援拠点機関として県の委託を受け、拠点機関としての役割や事業の進め方などを検討する会議であり、年1回開催している。委員は、当事者団体や学識経験者、専門支援機関、職域団体、行政等によって構成されている。令和6年度は令和7年1月31日（金）に横浜市開港記念会館にて開催した。

<議題>

- ① 神奈川県の高次脳機能障害者支援の取り組み状況について
- ・ 神奈川県の取り組みについて……神奈川県障害福祉課
 - ・ 支援拠点機関の取り組みについて……神奈川県総合リハビリテーションセンター

② 政令指定都市等における高次脳機能障害者の支援状況について

- ・横浜市の取り組みと動向……横浜市総合リハビリテーションセンター
- ・川崎市の取り組みと動向……川崎北部リハビリテーションセンター
- ・相模原市の取り組みと動向……相模原市高齢・障害者福祉課
- ・当事者団体の取り組みについて……NPO 法人高次脳機能障害友の会ナナ

③ 意見交換

(ウ) 政令指定都市（横浜・川崎・相模原）との連携

高次脳機能障害支援普及事業は全県域を対象としてはいるが、横浜市、川崎市、相模原市の政令指定都市は独自の高次脳機能障害支援事業を展開している。それぞれのリハビリテーションセンター等が核となり、相談、生活訓練、就労支援などの実績を積んできたが、県内での高次脳機能障害者への支援の流れに漏れのないように、また地域情報や資源の開拓などを共有しながら相談のシステム化を図っていくために、平成 20 年度より県・横浜・川崎の核となる機関との高次脳機能障害支援機関連絡会議を年 2 回実施している（平成 25 年度までは年 3 回の開催）。なお、平成 22 年度より政令指定都市となった相模原市障害政策課が加わり、令和 2 年度より相模原市高齢・障害者福祉課が出席している。

表 11 高次脳機能障害支援機関連絡会議

開催日	開催場所	参加機関と職種
6/14 (金)	相模原市南保陰福祉センター	・横浜市総合リハセンター（コーディネーター、SW） ・川崎市北部リハセンター（SW） ・川崎市中部リハセンター（SW、心理、行政） ・川崎市南部リハセンター（SW、行政）
12/20 (金)	川崎市南部 リハビリテーションセンター	・れいんぼう川崎（SW） ・高次脳機能障害地域活動支援センター（SW） ・相模原市高齢・障害者福祉課障害福祉班 ・かわせみ会（相談員） ・神奈川県総合リハセンター（コーディネーター） ・神奈川県障害福祉課

(エ) 相談支援事業所との連携

家族と地域支援者をつなぐ試みとして、平塚市の委託相談支援事業所である「ほっとステーション平塚」で高次脳機能障害家族相談会を開催した。令和 6 年度も「成年後見制度」の研修会、平塚の相談会を継続開催し当事者 1 名、家族 4 名、支援者 2 名の参加があった。

(オ) 家族会との連携

地域内研修の共催および協力では、ナナの会と連携し、県内の各地域で高次脳機能障害支援関連の講習会を開催している。令和 6 年度において、ナナの会が主催して、地域リハビリテーション支援センターが協力を行った講習会を 3 回開催した。11 月 23 日は藤沢商工会議所で参加者 28 名、令和 7 年 1 月 26 日は横浜情文ホールで参加者は 189 名、令和 7 年 2 月 2 日はえびな市民活動センターで参加者は 3 名となった。

ウ 研修事業

(ア) 研修会の開催

高次脳機能障がいへの普及啓発を目的としたセミナーを年4回実施した。全て対面にて実施した。

表 12 高次脳機能障がいセミナーの受講者数等

No	研修名	開催日	定員	受講者数	開催場所	評価 /4
1	高次脳機能障がいセミナー 小児編	R6/6/29 土	30 人	52 名	神奈川工科大 IT	3.8
2	高次脳機能障がいセミナー 理解編	R6/9/29 土	100 人	79 名	県総合医療会館	3.9
3	高次脳機能障がいセミナー 実務編	R6/12/14 土	40 人	42 名	神奈川工科大 IT	3.8
4	高次脳機能障がいセミナー 就労支援編	R7/1/18 土	40 人	41 名	神奈川工科大 IT	3.8
			210 人	214 名		3.8

(イ) ネットワーク育成事業：高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会

県内の各機関が実践している支援や相談等に関する情報を交換・共有することで、各機関の連携強化やネットワーク化を図り、県内の高次脳機能障害支援技術の向上に寄与することを目的として県内事業所（16 事業所）が参加し年2回開催した。

- ・第1回 令和6年7月19日（金）15時～17時 オンライン開催
- ・第2回 令和7年1月21日（火）15時～17時 オンライン開催

(ウ) 事例検討会

令和6年度は5回の開催となった。

- ① 令和6年7月26日相模原市事例検討会：10名
- ② 令和6年9月18日藤沢市事例検討会：17名
- ③ 令和7年1月16日鎌倉市大和市事例検討会：46名
- ④ 令和7年2月18日相模原市事例検討会：14名
- ⑤ 令和7年2月28日藤沢市事例検討会（オンライン）：10名

エ 国との連携

(ア) 全国高次脳機能障害相談支援コーディネーター会議

支援コーディネーターの知識、制度利用について等、職務の向上と支援施策の均てん化を図るため、平成21年度より支援コーディネーター会議が開催されている。

- ① 令和6年6月26日 開催方法：オンライン
- ② 令和7年2月14日 開催方法：オンライン

(イ) 関東甲信越ブロック・東京ブロック合同会議

東京、茨城、埼玉、千葉、神奈川、長野、栃木、群馬、新潟、山梨の10都県の支援拠点機関および各県の主管課等が参加した。各都県の事業実施状況等を情報交換するとともに地域支援ネットワークの構築に必要な協議を行った。

令和6年11月13日 開催方法：オンライン

5 厚木看護専門学校事業

昭和 43 年 4 月に厚木准看護婦学校として開校以来、令和 7 年 5 月で 57 年が経過した。「共に生きる社会」の発展に貢献する神奈川県総合リハビリテーション事業団の基本理念に基づき、神奈川県県央地域の保健・医療・福祉に貢献できる看護師の育成を使命とし、開校以来 4,571 人の卒業生を送り出している。この使命を果たすため、以下の理念に基づいた教育を目指している。

- 学生一人一人の持つ可能性を引き出し、専門職業人として信頼される高い倫理観、自律性を育てる
- 人間と健康に対する理解を深め、自ら考え、看護を探究できる看護の実践者を育成する
- 時代の先見性をもって柔軟に多職種と協働できる専門職業人を育成する

令和 6 年度は、看護学科（第 43 回生）81 人が入学した。同年度 3 月には、医療専門課程である看護学科（第 41 回生）80 人が卒業し、「専門士（医療専門課程）」の称号を付与した。また、同年度 2 月に実施された看護師国家試験に 75 人が合格した。

なお、令和 6 年度卒業生の就職及び進学状況は、県内医療機関への就職 74 人、助産師課程進学 1 人の計 75 人である。

令和 7 年度入学生の応募者状況は定員 80 人のところ 121 人、受験者状況は 116 人であった。受験倍率は 1.5 倍となっている。令和 7 年 4 月には、看護学科（第 44 回生）88 人が入学した。

(1) 在籍者の状況（令和 7 年 3 月 31 日現在）

（単位 人）

区 分		年 度 当 初 在 籍 者 数	年 度 内 の 移 動		年 度 末 在 籍 者 数
学科	学年（定員）		中途入学者数	中途退学者数	
看護学科	1 年（80）	< 0 > 81	0	2	79（0）
	2 年（80）	< 0 > 74	0	0	74（0）
	3 年（80）	< 2 > 82	0	1	81（1）
	計（240）	< 2 > 237	0	3	234（1）

注 年度当初在籍者数の< >書きは、留年者数で内書きとする。

注 年度末在籍者数の（ ）書きは、年度末退学者数で内書きとする。

(2) 卒業生の就職等の状況 (単位 人)

区分	卒業 者数	就職者数			進学 者数	その他
		総数	県内	うち事業団		
			県外	-		
看護学科	80	74	74	16	1	0
			0	-		

(3) 応募者の状況

看護学科（3年課程・全日制）[募集定員80名]

(単位 人)

区分	応募 者数	受験 者数	合格 者数	入学 者数	応募 倍率	受験 倍率	合格率 (%)	入学率 (%)	卒業 者数	国家試験 合格者数	国家試験 合格率 (%)
44回生 (R7年度入学)	121	116	94	88	1.5	1.5	81.0%	93.6%	-	-	-
43回生 (R6年度入学)	129	119	90	81	1.6	1.5	75.6%	90.0%	-	-	-
42回生 (R5年度入学)	154	149	86	79	1.9	1.9	57.7%	91.9%	-	-	-
41回生 (R4年度入学)	236	232	95	85	3.0	2.9	40.9%	89.5%	80	75	93.8%

※応募倍率 = 応募者数 ÷ 募集定員

※受験倍率 = 受験者数 ÷ 募集定員

6 地域の保健・医療・福祉への支援事業

本事業は、センターの持つリハビリテーションの専門機能を地域の関係機関、関係施設等に提供し、センターと各関係機関及び各施設等が相互に連携を図りながら、地域の保健・医療・福祉の向上を目指している。令和6年度は、地域への派遣延人数が252人で、研修事業等への派遣延人数が605人、実習等の受入延人数は3,968人であった。

区 分	事業分類	事業内容	実 績
Ⅰ 地域保健・医療・福祉事業への支援	1 医学的判定・医学的指導への支援	医学的判定支援	厚木市 他5件 延149人
	2 医療・訓練事業への支援	医療・訓練協力	厚木精華園 他6件 延103人
Ⅱ 研修事業等	1 研修事業への協力（外部機関の専門職員研修会に講師派遣）	(1) 医療関係職員研修	公益社団法人神奈川県看護協会 他24件 延166人
		(2) 福祉関係職員研修	社会福祉法人 愛の森学園 他2件 延14人
		(3) 教育関係職員研修	神奈川県立保健福祉大学 他11件 延179人
		(4) 各種相談員・ホームヘルパー・ボランティア等研修	日本高次脳機能障害友の会 他6件 延69人
		(5) 障害者・介護者（家族）研修	交通事故被害者家族ネットワーク 他3件 延5人
		(6) 一般住民	NPO 法人日本 ACLS 協会 他3件 延5人
		(7) その他	特定非営利活動法人日本せきずい基金 他7件 延16人

区 分	事業分類	事業内容	実 績
Ⅱ 研修事業等	2 専門職員養成事業等への支援	(1) 学生臨床実習受入	(福祉部門) 町田保育専門学校 他 18 校 延 803 人 (神奈川リハ病院) 積善会看護専門学校 他 26 校 延 3, 165 人
		(2) 福祉施設等職員実習受入	平塚盲学校 他 1 件 延 6 人
		(3) 各種人材養成研修派遣	神奈川県 他 23 件 延 94 人
		(4) 非常勤講師派遣	神奈川県立保健福祉大学 他 25 件 延 57 人
		(5) 医療関係者実習受入	神奈川工科大学看護学生涯学習センター 他 2 件 延 52 人
Ⅲ 障害者福祉行事等への支援	1 障害者スポーツ大会等への支援	身障者スポーツ大会への支援	公益財団法人日本障害者スキー連盟 他 18 件 延 166 人
Ⅳ 各種団体運営等への支援	1 各種団体運営等への支援	(1) 国、県、市町村等の公的機関への支援	厚木市 他 32 件 延 69 人
		(2) 民間団体等への支援	神奈川県知的障害施設団体連合会 他 55 件 延 112 人
Ⅴ 調査研究事業等への支援	1 調査研究事業等への支援	調査研究事業等への支援	国立障害者リハビリテーションセンター 他 4 件 延 7 人
	2 各種委員会への支援	各種委員会への支援	公益財団法人かながわ福祉サービス振興会 他 17 件 延 39 人

7 職員確保対策事業

令和6年度の職員確保対策については、所属、職種ごとに補充対象を検討し、求人活動を行った。採用者82人の職種別内訳では、看護職員が最も多く36人（43.9％）となっている。医師の確保については、大学医局との連携強化を模索するとともに、採用が困難な診療科医師を民間の紹介業者を活用し確保活動を行った。また、看護職員の確保については、年間を通して適正な医療サービスの提供ができるよう、退職者の補充に加え出産休暇、育児休業等で勤務に就くことができない職員数を加味し、採用を行った。

今後も採用が困難な医師等の安定的な確保に力を注いでいく。

(1) 職員充足状況

(単位 人)

職種別 区 分			総 数	職 種 別 内 訳					
				医 師	看護職員	理学療法士	作業療法士	指導員	その他の 役職員
定 員			647	44	221	51	38	145	148
現 正 員	正	令和 5 年度末現在人員	584	33	232	54	34	127	104
		令和 6 年 3 月31日退職	(60)	(7)	(24)	(4)	(4)	(15)	(6)
		令和 6 年度採用	82	9	36	7	6	16	8
		令和 6 年度退職	24	5	8	3	2	4	2
		職種変更	0	0	▲ 3	0	0	0	3
	規	令和 6 年度末現在人員	582	30	233	54	34	124	107
		令和 7 年 3 月31日退職	(43)	(3)	(20)	(4)	(0)	(11)	(5)
		臨時	令和 6 年度末現在人員	96	1	2	9	3	23
	計		678	31	235	63	37	147	165
	過 不 足 数			31	▲ 13	14	12	▲ 1	2
充 足 率 (%)			104.8	70.5	106.3	123.5	97.4	101.4	111.5

注 令和7年3月31日退職欄の（ ）書きは、令和6年度末現在人員の内書きとする。

(2) 令和6年度 常勤医師の採用数

麻酔科医師	内科医師
0人	0人

(3) 学資金等の貸付事業の状況

区 分	学資金貸付 (厚木看護専門学校)		学資金貸付 (外部養成校)		計	
	人員	金 額	人員	金 額	人員	金 額
	人	千円	人	千円	人	千円
看 護 師	59	49,560	3	1,800	62	51,360

注 看護師に対する学資金等は厚木看護専門学校生は月額70千円、外部養成校学生は月額50千円の貸し付けである。

(4) こども園保育状況

(単位 人)

区 分	3歳未満	3歳以上	合 計
R5年度末在園児数	15 人	1 人	16 人
R6年3月31日 卒園・退園児数	▲ 2 人	0 人	▲ 2 人
R6年4月1日 クラス編成異動児数	▲ 1 人	1 人	0 人
R6年度入園児数	4 人	3 人	7 人
R6年度退園児数	▲ 4 人	▲ 1 人	▲ 5 人
年度末在園児数	12 人	4 人	16 人

注 クラス編成異動児数は、3歳未満から3歳以上に異動した児数をいう。

8 職員福利厚生事業

令和6年度の状況は、次のとおりである。

(1) 職員宿舍入居状況

(令和7年3月31日現在)

区 分	宿舍名	内 容	戸または室数	入居数	入居率 (%)
単身者用宿舍	レオパレス等	ワンルーム	27	25	92.6
世帯者用宿舍	七沢アパート	3DK	48	17	35.4
合 計			75	42	56.0

(2) 健康診断実施状況

種 別	実 施 月	対 象 者 数	受診者数	受診率(%)	要精検者
一般定期健康診断					
定期健康診断	第1回 7月	713	689	96.6	78
特定業務従事者健康診断	第2回 1月	564	557	98.8	45
雇用時健康診断	雇用時			—	
特別定期健康診断					
有機溶剤等取扱者検診	第1回 7月	4	4	100.0	0
	第2回 1月	4	4	100.0	0
電離放射線業務従事者検診	第1回 7月	19	19	100.0	0
	第2回 1月	21	21	100.0	0
被曝線量測定	年12回		312	—	
臨時健康診断					
B型肝炎予防検診（抗原、抗体検査）	7月	対象全職種 63	63	100.0	—
	雇用時	中途採用者 0	0	—	—
B型肝炎予防ワクチン接種	第1回 8月	(希望者) 42	42	100.0	—
	第2回 9月	(希望者) 40	40	100.0	—
	第3回 1月	(希望者) 32	32	100.0	—
インフルエンザ予防ワクチン接種	11月	(希望者)	566	—	—
婦人科系検診（乳・子宮がん検診）	9月、10月	(希望者)	186	—	—
腹部超音波検診	1月	(希望者)	53	—	—
免疫4種抗体検査	7月	対象全職種 77	77	100.0	—
	雇用時	中途採用者 0	0	—	—
人間ドック					
事業団職員	10月～12月	(希望者)	69	—	—
一般衛生管理					
検 便	栄養士年24回		148	—	—

(3) 貸付事業の状況

区 分	人 員	貸 付 額	1 人 平 均
一 般 貸 付	1 人	2,000 千円	2,000 千円
特 別 貸 付	1 人	2,520 千円	2,520 千円
計	2 人	4,520 千円	2,260 千円

9 経営計画に基づく取組状況

平成 28 年度からリハセンターの第二期指定管理期間が始まり、当事業団は指定管理者として引き続き選定された。これを契機に、当事業団は、平成 28 年 3 月にこれからの 10 年に向けリハセンターの役割・機能発揮と安定的な事業継続が図れるよう経営計画を策定した。

(1) 福祉施設の取組状況

令和 6 年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行し徐々に規制を緩和していった前年度を踏まえ、ウイズコロナとして感染予防対策を行い、通常の運営を実施してきた。8 月に療育園でクラスターが発生したが、それ以外の集団感染はなく 1 年が経過した。令和 6 年度の利用実績は、令和 5 年度との比較において、七沢学園は児童短期入所の受入数が、成人は入所者数と短期入所の受入数が増加した。療育園は、昨年度同様利用率は高い数値で推移して、自立支援ホームは若干低下した。施設入所者の受入れとともに、学園児童、学園成人、療育園では、多くの短期入所者を受入れ、地域支援としての入所施設の機能を果たすことができたと思われる。

ところで、令和 5 年度に生じた学園児童における不適切な支援については、令和 6 年 5 月 2 日に 2 件の虐待案件として認定された。その後、外部委員を加えて虐待防止改善計画を作成した。その内容は法人との連携強化、職員の資質向上、虐待を未然に防止する運営体制の強化、管理監督者の指導の見直し、利用者支援の見直し、支援環境の整備で 6 領域と多岐にわたるが、利用者の尊厳を重視した支援を展開していく指針を検討した。まずは、福祉局で課題を共有するために職員全員を対象に階層別研修でこの改善計画の理解を促した。

内容と主な実績だが、管理者と職員のコミュニケーションの強化として、職員が能力評価時に虐待防止に関する目標を設定し管理職と面談をする機会を新たに設けた。また、第三者委員に協力を依頼して毎回相談に加え職場内の巡回を定例化した。意思決定支援の推進に関しては、七沢学園、療育園の利用者の個別支援会議等への参加を各施設とも 12 月ごろから取り組みを始めた。七沢学園成人では会議で写真を見せながら支援の内容を振りかえる時間を設定したところ、興味深く写真をみてじっくり話を聞く利用者もみられた。学園児童では、児童相談所と準備を重ね児童相談所の職員が 4 月早々の個別支援会議に初めて参加した。療育園では、ナースステーションに車いすに乗車させた利用者を移動させ、利用者の隣にスタッフが座り会議を進めている。今後、それぞれの所属で少しでも内容を理解できるようにするための工夫が課題となっている。身体拘束の適正化は、3 年前より各所属の身体拘束適正化委員会で改善に取り組んできており、現在、強度行動障害の成人寮においては安全性の確認するなか、車いす乗車時のベルト着用は 5 名から 0 名へ、居室施設は 3 名から 1 名（1 日平均約 50 分）と減少した。療育園でも、長期利用者 34 名中、10 名は身体拘束をおこなわない状況となった。最後に、児童ユニットにおいては、年度途中採用の正規職員や非常勤職員を配置して支援環境の改善を試みるなか、ユニットでの生活のルールブックを作成して毎週の朝のミーティングに読み合わせを始めた。さらに規範の育成を目指し、利用者と職員が一緒にルールを見直す共同作業も開始した。

愛着障害、強度行動障害、障害の重度化、高齢化など利用者是对応が困難になる一方で、閉鎖的、

保守的になりがちな施設入所支援ではあるが、福祉局としては、人材確保と当事者目線で支援をおこなう努力を今後とも継続していきたい。

(2) 病院の取組状況

病院の利用状況については、一日平均利用率が昨年に比べ（R5：82.7%→R6：81.3%（▲1.4%））と低下した。これは、入院実人数は増加したものの（R5：1,230人→R6：1,246人）、平均在院日数（R5：67.4日→R6：66.6日（▲0.8日））が減少したためと考えられる。外来患者数についても昨年度より減少した（R5：49,439人→R6：47,806人（▲1,633人））が、新型コロナのワクチン接種が終了したことの影響も大きいとみられる。平均在院日数、外来者数の減少は全国的な傾向であり、当院も同様の結果となっている。経営計画の利用率目標値（90%）に届かなかったが、単価が上昇したことにより病院収入は確保できた。

利用率の向上に向けた取り組みとしては、医療機関向けの広報活動として、当院の診療内容の周知と知名度の向上を図るため、急性期病院のMSW等を対象とした見学会の実施や、周辺のクリニックに対する訪問による病院説明などを実施した。

病院機能を維持するために必要となる人員の確保では特に医師、看護師、セラピストの確保に注力した。医師の確保については、大学医局に働きかけたことにより、リハビリテーション科や整形外科では若手医師の採用につながったが、内科、精神科、耳鼻科、麻酔科などの診療科では紹介業者の仲介を利用したが、採用には繋がらなかった。

看護師については、就職サイトの活用や説明会、病院見学会などの実施により内定者数はおおむね確保できたが、予想を上回る国家試験の不合格者により、令和7年度は予定より厳しい看護配置となった。セラピストについても実習指導の受入れ、見学会の実施などの確保対策により予定通りの採用者を確保することができた。いずれの職種についても、引き続き職員確保に尽力する必要がある。

また、県とともに活動している筋電義手の取り組みでは、増額された経費に対して、こども医療センターや川崎市複合福祉施設との連携によるアウトリーチ支援を行った。こども医療センターとは連携が進み、令和6年度の新規患者7人の内5人がこども医療センターから紹介を受けた患者であった。

国土交通省の事業であり独立行政法人自動車事故対策機構（ナスバ）が実施主体である「重度脊髄損傷者受入環境整備事業（モデル事業）」を受託した。自動車の交通事故による脊髄損傷者の受入環境整備に向けたモデル事業であり、脊髄損傷者のリハビリテーションに関する検証に協力し令和6年度は4人の受入れを行った。当院は東日本のモデル病院として選定されておりリハビリテーションの高度専門的な病院として先進先駆的な役割を果たすこととなった。

そのほか、高度専門性の高い取り組みとして、バーチャルリアリティを用いた歩行・バランストレーニングシステム（GRAIL、MOTTEK社製）の導入や、末梢神経に磁気刺激を与え、筋の収縮を誘発する医療機器（パスリーダー、株式会社IFG社製）の導入など、新たな取り組みを開始した。障害者スポーツの普及推進についても昨年度に引き続き定期的に実施し、障害者の社会参加及び共生社会の実現に向け取り組んでいる。

■令和6年度事業計画の数値目標と実績

区分		令和6年度 目標①	令和6年度 実績②	差異 ②－①	令和5年度 実績③	差異 ②－③
七沢学園 児童	家庭復帰率	81.0%	50.0%	▲ 31.0%	71.4%	▲ 21.4%
	強度行動障害者 (1日当たり受け入れ人数)	2.0人	1.0人	▲ 1.0人	1.0人	0.0人
	集中療育 (年間実利用者数)	8.5人	2.0人	▲ 6.5人	1.0人	1.0
	1日平均利用者数	29.4人	26.0人	▲ 3.4人	25.8人	0.2人
	利用率	98.0%	86.6%	▲ 11.4%	85.9%	0.7%
七沢学園 成人	家庭復帰率	61.5%	75.1%	13.6%	100.0%	▲ 24.9%
	医療重度障害者 (1日当たり受け入れ人数)	3.0人	5.0人	2.0人	5.0人	0.0人
	強度行動障害者 (1日当たり受け入れ人数)	6.0人	6.0人	0.0人	6.0人	0.0人
	1日平均利用者数	27.9人	26.3人	▲ 1.6人	24.4人	1.9人
	利用率	93.1%	87.5%	▲ 5.6%	81.5%	6.0%
七沢学園	満足度	3.2点/4点	3.6点/4点	0.4点	3.4点/4点	0.2点
七沢療育園	超・準超重症児 (1日当たり受け入れ人数)	10.0人	13.1人	3.1人	11.3人	1.8人
	短期入所 (1日当たり受け入れ人数)	2.8人	2.7人	▲ 0.1人	3.4人	▲ 0.7人
	満足度	3.7点/4点	3.9点/4点	0.2点	3.8点/4点	0.1点
	1日平均利用者数 (長期のみ)	37.8人	34.5人	▲ 3.3人	33.9人	0.6人
	利用率 (長期のみ)	94.5%	86.4%	▲ 8.1%	84.7%	1.7%
七沢 自立支援 ホーム	家庭復帰率	91.0%	87.5%	▲ 3.5%	90.0%	▲ 2.5%
	満足度	3.1点/4点	3.6点/4点	0.5点	3.5点/4点	0.1点
	1日平均利用者数	47.0人	32.2人	▲ 14.8人	32.3人	▲ 0.1人
	利用率	94.1%	64.5%	▲ 29.6%	64.7%	▲ 0.2%
神奈川 リハビリ テーショ ン病院	家庭復帰率	81.0%	87.7%	6.7%	87.7%	0.0%
	年間手術件数	400件	424件	24件	383件	41件
	紹介件数	2,300件	2,041件	▲ 259件	2,015件	26件
	逆紹介件数	1,300件	1,974件	674件	2,014件	▲ 40件
	入院患者満足度	3.5点	3.7点	0.2点	3.7点	0.0点
	外来患者満足度		3.6点	0.1点	3.6点	0.0点
	入院患者利用率	90.0%	81.3%	▲ 8.7%	82.7%	▲ 1.4%
	一日平均入院患者数	252.0人	227.6人	▲ 24.4人	231.6人	▲ 4.0人
	外来1日平均利用数	300.0人	196.7人	▲ 103.3人	203.5人	▲ 6.8人
	後発医薬品目採用率	40.0%	39.7%	▲ 0.3%	39.1%	0.6%
	入院申込みの承認率	90.0%	95.4%	5.4%	93.6%	1.8%
	入院申込みから決定連絡までの日数	7.0日	9.1日	2.1日	8.2日	90.0%
	常勤医師の 採用	麻酔科医師	1人	0人	1人	▲ 1.0人
		歯科医師	1人	0人	1人	▲ 1.0人
	1患者当りの 訓練実施件数 (単位)	回復期病棟	6.0単位	4.6単位	4.5単位	0.1単位
		一般病棟	4.0単位	2.9単位	2.8単位	0.1単位
厚木看護 専門学校	国家試験合格率	100.0%	93.8%	▲ 6.2%	95.1%	▲ 1.3%
	県内就職率	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	事業団への就職人数	25人	16人	▲ 9人	24人	▲ 8人

事業報告の附属明細書

令和6年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人

神奈川県総合リハビリテーション事業団

資 金 収 支 計 算 書

令 和 6 年 度

社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団

目 次

資金収支計算書

I 法人全体

1 法人単位資金収支計算書	2
2 資金収支内訳表	3
3 社会福祉事業区分 資金収支内訳表	4
4 公益事業区分 資金収支内訳表	6

II 社会福祉事業区分 資金収支計算書

1 事務局拠点区分	9
2 七沢学園（児童）拠点区分	1 1
3 七沢学園（成人）拠点区分	1 2
4 七沢療育園拠点区分	1 3
5 七沢自立支援ホーム拠点区分	1 5

III 公益事業区分 資金収支計算書

1 神奈川リハビリテーション病院拠点区分	1 7
2 地域リハビリテーション支援センター拠点区分	1 9
3 厚木看護専門学校拠点区分	2 0

【法人全体】